

事業のタネシート

活動地域・団体名：株式会社地域価値協創システム

事業名称 1：環境・観光事業 「バイオ炭」利活用のための商品・サービス開発		
あらすじ		
<p>バイオ炭製炭事業の次のステップとして、一般的な熱源利用以外の利活用範囲を広げ、付加価値の高い商品や炭利用サービスの開発により、新たな収益と雇用の場を増やし、福祉就労の新たなモデルとなる事業</p>		
ストーリー		
<p>オホーツク地域の間伐材や店頭に並ばない規格外の野菜など、今までは廃棄されていたものがバイオ炭の資源となって製炭される事業を美幌町内NPOが開始した。</p> <p>炭の原料は豊富であり、プラント操作スキルも定着してきたことから安定的な製炭炉稼働とバイオ炭供給が見込めるようになっている。</p> <p>バイオ炭は、一般的な熱源利用の他、雑貨、農業における融雪や土壌改良、建築資材、食材などの様々なバイオマス資源を用いた環境対応商品やエコツーリズム等の観光資源としての可能性を持っている。</p> <p>製炭事業を地域循環経済の核として機能させ、社会福祉と環境保全の融合によりローカルSDGsを目指すプラットフォームを構築する。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	未活用資源を活かした「バイオ炭」を核とした事業で環境と経済が調和した地域	<ul style="list-style-type: none"> 商品化可能で一定の需要が見込める炭商品・サービスの選定 食用としての品質確保 商品の販路確保拡大 エコツーリズムのコーディネート
②課題	<ul style="list-style-type: none"> 需要を見込める商品・サービスの絞り込み 検査機関との連携 J-クレジット創出のための仕組みづくり 地域内外の“販売体制”の構築 事業の認知度向上によるバイオ炭利用者・材料提供者の確保 	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	“バイオ炭”に関わる利用用途があらゆる分野に広がることにより環境保全と福祉就労の場である製炭事業を、持続的な経済循環の要にして、地域活性化につなげるため。	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> 福祉就労や子育て世代の働き手がいる・福祉就労の担い手（NPO法人）がいる 未利用の木質バイオマス資源が豊富 規格外野菜や農業残差物がある オホーツク地域の観光地イメージ 北海道ブランドの食材が豊富 	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> 製炭事業協力者へJクレジット売却による還元 農業者へバイオ炭を利用した融雪剤、土壌改良剤の提供 建築業者へ建築資材として提供 環境対応熱源としてのバイオ炭の提供 脱炭素をキーワードにしたエコツーリズム 	
⑥担い手 (Who)	北海道開発局、北海道農政事務所、林産試験場、美幌町役場、商工会議所、金融機関、農林業者、北見NPOサポートセンター	
⑦事業で生じる循環	農林業の未利用物、廃棄物の有価物化→新たな収益源とコスト削減→事業創出による就労者拡大と環境負荷低減→地域価値の向上→ローカルSDGs実現	
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物処理費用の削減とJクレジットによる新たな還元収益 脱炭素の認知度拡大によるバイオ炭の使用促進 事業への新規協力者の獲得期待度向上 	

事業名称2：教育事業 「ローカルSDGs教室」の実施		
あらすじ		
地域住民・企業関係者・中高生を対象に、地域の資源と課題から実現した製炭事業をモデルにローカルSDGsを理解できる教室を開催		
ストーリー		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民・企業関係者、中高生を対象に、ローカルSDGs教室を開催する。 ・地域特有の余剰・廃棄物が資源として利用され、製炭事業によりどのような経済循環を生みだしているかを知ってもらう。 ・地域住民に分散型自然共生における脱炭素と地域社会の環境・経済の在り方を考える機会としたい。 ・中高生には、福祉就労の役割をもつ製炭事業を知ること多様性を尊重し合った働き方や社会・他者への理解を深め、自分の進路と未来像に重ねて考える機会とし、都会ではないこの地域ならではの“ある”に気づきを得てもらうことで、将来の地域循環経済の担い手育成のきっかけにしたい。 		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	若い世代が安心して働き暮らせる分散型自然共生可能な地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容の検討 一般用、中高生用 ・参加者募集の方法
②課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ローカルSDGsの認知度不足 ・将来の担い手不足 	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsと地域の特性を認識し、製炭事業への関心と理解、協力を得るため ・若い世代が地域ならではの働き方を知り、“将来にわたって暮らしたい地域”となるため 	
④地域資源	製炭事業、フリースクール、寺子屋、高等学校、自然共生地域	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> ・ローカルSDGs実現への地域価値を再認識する教室・セミナー ・多様な人達の協働と地域の“ある”を活かす経済循環の仕組みを理解する教室・セミナー ・日常生活での脱炭素行動提案ワークショップ 	
⑥担い手 (Who)	商工会議所、フリースクール、寺子屋	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	参加者が製炭事業における地域循環経済のしくみを理解→バイオ炭利用の脱炭素事業・商品への意識向上→ローカルSDGs実現への行動→環境と経済のバランスの取れた地域社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに詳しい講師 ・商工会議所 ・地域の中学校、高校の理解 ・フリースクール及び寺子屋講師
⑧事業で生じる成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い世代のローカルSDGsへの関心度向上 2. 分散型自然共生の実現地域で生活できることへの満足感 3. バイオ炭を核とした環境保全と福祉就労の推進 4. 社会福祉と環境保全の融合による地域経済循環システム確立 	